

1980年以來、メダカなどの水生生物が少なくなった原因として考えられること

1. 水のよごれ

和歌山市では、多くの地域で家庭排水が、下水として川や農業用水に流されています。そして、水の少ない越冬中の用水路に大量の下水が流されると、そこにすんでいるメダカなどの水生生物の多くは、死んでしまいます。

2. 農業用水路の3面コンクリート化

メダカなどの生息場所であり、主な越冬場所でもある農業用水路は、以前は石づみや板張りや素掘りでした。そのため、水草や雑草がたくさん生えて、水を大量にすばやく流すのに適していなかったため、草かりや泥上げの簡単な3面コンクリート化されてきました。しかし、3面コンクリートの用水路では、水草がほとんど育たなく、また水の流れが速いとき、メダカなどの小動物のにげる場所がなくて、すぐに流されてしまいます。そのうえ、あまり水の流されない秋 冬の間、底もコンクリートなので干上がってしまうところも多くて、メダカなどの水生生物の生息には適していないのです。

3. すみ場所の減少

湿地や水田のうめ立てによって、メダカなどのすめる場所が少なくなった。

* かつて、(1945年 1970年ころ)有機水銀剤、BHCやDDT、ディルドリンなどの毒性の強い農薬を使っていたころは、水生生物もかなりいなくなってしまったらしいが、1971年 1972年にかけての農薬取締法の改正と規制などにより、それらの農薬は規制され使われなくなっている。

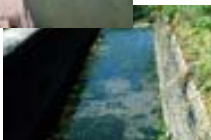
冬をこす大切な場所

冬でも比較的きれいな水のたまっている場所では、多くの水生生物が冬ごしをします。メダカなどの水生生物をまもるには、越冬場所を保全することが大変重要です。



岡崎

2側面コンクリートだが、流れが弱く水もきれい。



三田

板張りの用水が多いが、水は年々きたなくなっている。



仁井辺

市内で最もよいメダカの越冬地。